

プロジェクト課題活動実績（令和7年度）

課 題 名：岩国地域における担い手確保に向けた体系的な体制整備

所 属 名：岩国農林水産事務所農業部

チーム員：林由希子、古橋典子、平田三佳、杉山久枝、西村昂将、藤尾将樹、河村葵

＜活動事例の要旨＞

特産物等の産地維持の担い手確保・育成に向けて、具体的活動について園芸作戦会議を活用した各関係機関との共通認識を図った。さらにれんこんにおける新規就農者の受け入れ研修体制の構築の協議や、いちご新規就農者の定着支援に向けた就農者及び受け入れる地域双方の意向把握を行った。

また、中山間地域等の担い手確保・育成に向けて、各地区協議会を活用した地域の現状把握や整理の実施、出身農大生の受入に係る双方の意向確認により課題の抽出を行った。

1 普及活動の課題・目標

岩国地域では、れんこん、わさびなどの特産物の産地振興や中山間地域等の農地維持のために、地域ごとに特色のある多様な営農が展開されている。品目や地域によっては新たな担い手の受入に向けた動きがあるものの、それぞれ適応する担い手のタイプが異なり、就農希望者の要望も様々であるため、対象に応じた支援策の構築が求められている。いずれの営農においても担い手の確保が共通課題となっている中で、円滑な担い手確保・育成・定着を行うためには、関係機関との綿密な連携や対象ごとの課題整理が不可欠である。

そこで、当プロジェクトでは「特産物等の産地の担い手確保・育成」と「中山間地域の担い手確保・育成」の2項目に課題を分け、それぞれについて対象を明確にした上で状況に応じた活動を行い、岩国地域の持続可能な農業経営の支援を行う。

2 普及活動の内容

（1）特産物等の産地の担い手確保・育成

ア 園芸作戦会議における担い手対策の強化

（ア）特産物等の産地の担い手確保の方針、活動計画協議

- ・月1回程度開催される園芸作戦会議を活用し、岩国市、JAと担い手確保に係る園芸品目の情報共有や活動内容の協議を行った。

（イ）継承体制（農地、遊休設備等の情報整理、意向確認等）の検討

- ・JA生産部会での遊休設備等を把握するため、わさび部会等の生産者を中心に施設等の譲渡希望を確認し、活用について検討した。

（ウ）募集活動支援

- ・れんこん短期研修を新たに開催するにあたり、その募集チラシ（市作成）の掲載内容を協議した。また県内・県外における就農ガイダンスの活動支援を行った。

（エ）研修体制の協議（れんこん）

- ・れんこん栽培を希望する者に対し、3日程度栽培農家の元で現地研修を受講できる「岩国れんこん栽培短期研修」を企画し、この運用体制や募集に係る内容について関係機関と協議を行った。

イ れんこんの受け入れ体制整備・研修体制の仕組みづくり

- ・れんこんにおける新たな担い手確保に向け、農大生への授業を計画し開催した。
また、岩国れんこん振興協議会生産技術部会（以下生産技術部会とする）に対し、園芸作戦会議で協議した短期研修の運用に係る合意形成や農大生授業の実施及び受入に関する調整を行った。
- ウ 施設野菜等の受け入れ体制整備・新規就農者（いちご：N氏）の定着支援・指導体制の検討
 - ・令和6年度にいちごで新規就農したN氏に対して、巡回指導や就農状況確認時に定着に向けた重点的な指導を行った。またJA山口県岩国統括本部岩国南部いちご部会（以下、「いちご部会」）に対し定着支援に向けた受入側の意向確認や課題整理を行うとともに、関係づくりを支援した。

（2）中山間地域等の担い手の確保・育成

ア 各地区協議会における担い手対策の強化

（ア）中山間地域等の担い手確保の方針、活動計画協議

- ・市内の3地区で開催される地区協議会等を活用し、地区ごとの担い手確保に係る情報収集を行った。

（イ）地域計画等の課題整理（担い手の受け入れモデル集落の掘り起こし）

- ・昨年度作成された地域計画の見直し協議や集落営農法人の課題について現状把握を行い、各地区の課題整理を行った。

イ 府谷集落の受け入れ体制整備

（ア）農事組合法人Gの現状整理（資源点検等）

- ・農大生（Y氏）は将来的に府谷集落への就農を検討しているため、当地域の主要な担い手である農事組合法人Gに対し、担い手受け入れに係る意向及び作業管理状況や体制について確認を行った。

（イ）農大生（Y氏）の就農支援

- ・新規就農円滑化促進会議を活用し、農大生（Y氏）と年3回面談を行った。面談では、農事組合法人Gへの行事参加の提案やタイムスケジュールの作成等を通じて今後の就農に係る意向確認を行った。

3 普及活動の成果

（1）特産物等の産地の担い手確保・育成

ア 園芸作戦会議における担い手対策の強化

（ア）特産物等の産地の担い手確保の方針、活動計画協議

- ・今年度の協議について、れんこん及びわさびに重点を置いて検討していくことで岩国市、JAと合意を得た。
- ・担い手対策の活動としてJA主催の「入門塾」「営農塾」について開催支援を行ってきたが、受講者の減少やそれに伴う開催中止があり、募集を含めた開催内容の再検討を行った。

（イ）継承体制（農地、遊休設備等の情報整理、意向確認等）の検討

- ・JAと共にわさび部会7名に対しハウスや林地の譲渡希望について聞き取りを行い、現段階で譲渡意向のある生産者がいないことがわかった。

（ウ）募集活動支援

- ・岩国れんこん栽培短期研修の募集チラシに掲載する内容として、研修の目的や求める人材、研修内容の記載方法などを決定した。作成された募集チラシは市

ホームページや市報、J Aだよりなどで告知した。

- ・やまぐち農林水産業新規就業ガイダンス(山口市)において岩国市ブースとして参加し、作成したチラシをもとに研修の説明を行った。また新・農業人フェア(東京都)においてもチラシを活用し来場者へ説明した。それぞれ2名と4名の相談があり対応を行った。

(エ) 研修体制の協議(れんこん)

- ・れんこん短期研修を実施するにあたり、役割分担を行うことで各関係機関が連携した形での運用体制を構築した。また研修実施に向けた事前説明会の開催体制や選考に係る条件の整理、受け入れ農家の選定、受講者・受入農家双方の留意点の作成、研修後の聞き取り等の体制を整備した。
- ・体制整備と併せて研修の募集を行った結果、1名の参加があり研修を2回(計6日間)実施した。

イ れんこんの受け入れ体制整備・研修体制の仕組みづくり

- ・農業大学校園芸学科野菜経営コース1年生6名に対し、7月3日にれんこんの講義を実施し、11月13日に地元れんこん加工業者の視察及びれんこん掘りとり実習を実施した。授業後のアンケートでは興味関心が高まった・栽培に関わってみたいといった意見を得ることができた。

ウ 施設野菜等の受け入れ体制整備・新規就農者(いちご：N氏)の定着支援・指導体制の検討

- ・6～9月の親株・育苗期は月1回、10月からの本ぼ定植以降は月2回以上の巡回を行うなど重点的な指導を行い、1月には観光農園のオープン及び初出荷が行われた。
- ・いちご部会における受け入れ体制の整備、指導体制の検討ではN氏が今年度部会に入会し、部会側も受け入れに協力的な意向は確認したが、N氏自身の体調不良や営農以外での都合により具体的な接点が持てなかった。

(2) 中山間地域等の担い手の確保・育成

ア 各地区協議会における担い手対策の強化

(ア) 中山間地域等の担い手確保の方針、活動計画協議

- ・各地区協議会内で既存の担い手への対応及び情報共有を行った。既存の担い手の現状確認が優先となり、新たな担い手に係る協議には至らなかった。

(イ) 地域計画等の課題整理(担い手の受け入れモデル集落の掘り起こし)

- ・地域計画の見直し協議が由宇町神東地区及び由宇地区の2か所で開催されたが、具体的な地域単位での取り組みの検討には至らなかった。

イ 府谷集落の受け入れ体制整備

(ア) 農事組合法人Gの現状整理(資源点検等)

- ・7月に大豆の生育確認と併せて、府谷地域の資源点検について提案を行ったが、法人の大豆及び水稻の作業実施時期と重なったため開催について合意を得られなかった。
- ・12月に法人の理事を中心に2回意向を確認した結果、法人内で受け入れに対する体制や意向が固まっておらず、内部での協議も未実施であることが判明した。
- ・改めて共通認識を図るために、大豆栽培に係る反省会では場・作業管理の状況や体制について聞き取りを行ったところ、現段階では法人理事で管理・把握が

できていることが分かった。またY氏の状況について情報提供を行ったが、Y氏に対する意見は具体的には出なかった。

(イ) 農大生（Y氏）の就農支援

- ・農事組合法人Gへの作業（水稻収穫）や通常総会への参加をY氏に提案し了承されたことで、法人と関わりを持つ機会を設定することができた。
- ・Y氏の聞き取りにより、一旦は管外の集落営農法人へ就業すること、10年をめぐりに府谷地域への就農を検討しているが、今後の具体的な意向については定まっていないことがわかった。
- ・Y氏の意向把握のため10年後までのタイムスケジュール作成を通じて面談を行い、法人へ就業する際の準備期間の必要性や計画性について確認できた。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 特産物等の産地の担い手確保・育成

ア 園芸作戦会議における担い手対策の強化

(ア) 特産物等の産地の担い手確保の方針、活動計画協議

- ・JA主催の「入門塾」「営農塾」については開催時期や内容の再検討を提案し了承されたため、担い手確保につながるような募集の方法、開催内容の確認、受講後のフォローアップなどについて引き続き検討していく。

(イ) 継承体制（農地、遊休設備等の情報整理、意向確認等）の検討

- ・わさびについては林地を含めた露地栽培を主軸とし、改めて継承体制の検討を行う。また並行して譲渡の有無など生産者の意向把握を継続する。
- ・わさび以外の品目については譲渡希望の対象の有無に応じ、円滑な継承に向けた支援を行う。

(ウ) 募集活動支援

- ・今年度の研修および募集を踏まえ、募集チラシ情報の更新を随時行いながら就農ガイダンス等を活用し募集を継続していく。
- ・新たな募集方法についても検討を行い、就農や研修へ人を呼び込むための体制を強化する。

(エ) 研修体制の協議（れんこん）

- ・次年度以降も引き続き栽培短期研修を実施するため、募集活動の強化を行う。
- ・短期研修に続く就農支援体制として、農業大学校の担い手養成研修を活用した長期研修の体制整備及び新規就農者向けの農地確保について協議していく。
- ・短期研修希望者の掘り起こしのため、れんこんのお試し体験の企画・運用体制について協議していく。

イ れんこんの受け入れ体制整備・研修体制の仕組みづくり

- ・農大生にれんこん栽培に対し興味関心を持ってもらうため、引き続き講義や実習を実施していく。
- ・生産技術部会に対し短期研修やお試し体験の運営を支援する。

ウ 施設野菜等の受け入れ体制整備・新規就農者（いちご：N氏）の定着支援・指導体制の検討

- ・巡回等による関係機関の指導と併せて、部会との接点を設け生産者同士での相談体制を確立させ、安定的な営農のに向けた技術的支援とフォローアップ体制整備の検討を行う。

(2) 中山間地域等の担い手の確保・育成

ア 各地区協議会における担い手対策の強化

(ア) 中山間地域等の担い手確保の方針、活動計画協議

- ・各地区における受け入れ体制の状況を引き続き把握していく。また、担い手確保における関係機関も含めた地域の課題について改めて整理し、具体的な対策の検討を行う。

(イ) 地域計画等の課題整理（担い手の受け入れモデル集落の掘り起こし）

- ・地域ごとの担い手受け入れに係る課題の整理を行う。また地域計画のブラッシュアップに向けた検討の開催支援を行う。

イ 府谷集落の受け入れ体制整備

(ア) 農事組合法人Gの現状整理（資源点検等）

- ・農大生（Y氏）だけでなく、受入の有無も含めた今後の法人のあり方や必要な取組について協議の場を設け、検討体制の構築を支援する。

(イ) 農大生（Y氏）の就農支援

- ・元農大生（Y氏）の意向を確認するため、実態・意向の把握、方向性の整理を行う。



れんこん栽培短期研修の様子（左：事前説明会、右：研修の様子）



新・農業人フェア(東京都)の
ブース掲示物の様子



新規就農者N氏といちご部会員との交流